

大坂選手の「反警察」に疑問

JJ1SXA/池

以下は、産経新聞「正論」に掲載された「福井県立大学教授・島田洋一氏」の記事の一部抜粋だ。

…日本国籍を持つ世界的テニスプレーヤー、大坂なおみ選手の「反警察」言動が危惧される、またそれを安易に褒め称える評論家群の存在である。

8月に米ウィスコンシン州で黒人男性が警官に撃たれ重傷を負う事件が起こった、運動体「黒人の命は大事…BLM」が警察糾弾デモを組織し、便乗分子による放火、略奪が続いた、現地に本拠を置くプロバスケット(NBA)チームが抗議の試合ボイコットに出、大坂選手も出場中の大会の棄権を表明した。

問題はこの時の声明文である、NBA選手らは、「警察の説明責任、警察の蛮行、刑事司法改革などで州議会が意味ある措置を取ることを求めた、ボイコットという手法や「蛮行」の定義について論議を呼んだものの、議会による改革を求めた点で、それなりに理性的な行動と受け止められた。

一方、大坂選手の声明は「警察の手による継続的な黒人ジェノサイド(計画的大虐殺)」という極端な言葉が躍るものだった。

米国の警察が黒人ジェノサイドに走る組織なら、ユダヤ人絶滅に邁進したナチスの親衛隊と同類となり、であれば被害者側の「殺される前に殺せ」が正当化されることになる、それこそまさに極左暴力集団が掲げる警察襲撃の論理そのものである。米国の識者もこの点を見逃していない、例えば、故レーガン元大統領の盟友が創刊した保守論壇誌「ナショナル・レビュー」は、元外交官セミナラ氏の辛辣な大坂批判文を載せている。

一定の具体性は持ったNBA選手らの声明に対し、「大坂氏は、その見境なく、危険な、感受性を欠いた『ジェノサイド』非難によって警官たちを非人間的存在に貶めた」と同論文は難じる、そしてもし多くの若者が大坂選手の言葉に影響を受けるなら、「警察との暴力的衝突がより多く生まれ、より多くが逮捕に抵抗し、より多くが撃たれることになる」とし、「彼女の声明は、言語道断かつ不快な上、率直に言って馬鹿げている」と批判のトーンを上げる。

さらに「大坂氏に聞きたいが、もし本当に警察が黒人に対するジェノサイド作戦を敢行中というなら、あなたはなぜフロリダに住み続けているのか」と問いかけた。

上記8月の事件は、性暴力を振るう男が再び侵入してきたと助けを求める女性の通報を受け、警察が駆け付けたことに端を発する。

男には性的暴行、家宅侵入等の容疑で逮捕状が出ていた、男が抵抗し車内にあったナイフをつかんだのを見て背後にいた警官が発砲した、

つかんだのが銃なら別だが、一旦距離を取るなどもせず連射したのは過剰対応といわれても仕方がない、当該警官は解雇され、現在司法手続きが進行中である。

しかしこの件を、警察による黒人ジェノサイドの一環と言うのは明らかに飛躍である、米

国の凶悪事件で最も多いのは加害者、被害者共に黒人のパターンである、警察が間に入って止めた例も多い、その過程で殉職した警官もいる。

この事件でも、被害女性は警察の介入で性暴力に遭わずに済んだ、その事実にも目を向けるべきだろう。

全米オープンで大坂選手がマスクに「被害者名」を記した7事件についても、それぞれ複雑な事情がある。

ケンタッキー州での黒人女性テイラーさん死亡事件では、発砲した警官が殺人に関して不起訴となったのを受けて「抗議デモ」が起こり、警戒中の警官 2 名が銃撃を受けて負傷した。

キャメロン州司法長官(黒人)は、搜索令状を持った警官がノックし「警察だ」と知らせたにもかかわらず、テイラーさんの男友達に発砲されて被弾し、応射したもので、警官側に落ち度はないと説明している。

バスケット界のレジェンド、チャールズ・バークリーとシャキール・オニール(いずれも黒人)も、この事件まで警官の蛮行とするのは問題で、「警察の資金を断て」運動にも反対すると明言した、BLM からの「裏切り者」非難にも屈せぬ姿勢を見せ、「勇気ある行動」は大坂選手でなく彼らだろう。…

大坂選手の棄権騒動も相談者もいたのですが、日本のマスコミは賞賛するが、米国でこのような批判があったことに驚き、批判の根拠を知ること、更に驚いた。

有名なスポーツ選手や芸能人が、政治的な発言・行動をすれば影響力は大きい、故に、生半可なことは慎んで貫きたいと常々思っているが、今回の、大阪選手の言動も真相を知らないまま、雰囲気での勇み足だったのでしょうか、そう思いたい。

先の安全保障法関連の時も、反対の声を挙げていた芸能人も多かったが、どれだけの方が中身を知っているの発言だったのか、戦争法案という言葉だけに惑わされての発言をしているであろうと思われる人も多かったような気がする、有名人であることで影響力が大きいことを自覚して、真剣に勉強して発言をしてもらいたい。

このように、反対の声を上げていた芸能人のその後を見ると、反対意見を貫くでも無く、反省の言があるわけでも無い、だが、影響を受けた人は多いと思う、そのことに関心があるか、どうも関心は無さそう、そこまで真剣に考えていれば、容易に発言はしないだろう。

大阪選手も、自分が黒人だと強調する前に、日本国籍を有する日本人だ、声明の内容を取り消すか、修正して謝罪するべきだろう。

真相を知らないままに軽率な行動を取ったことを謝罪すれば、米国でも受け入れてもらえるであろう、試合を一旦棄権するとしたが、出場に切り替えた経緯には、周囲からの説得があったのであろう、過ちは誰にでもある、過ちと認めて反省することができる人と、過ちに気付いたが、謝罪することのできない人達も多いでしょう、大阪選手は、そんな人たちとは違うことを信じたい。